

鹿ノ台川柳教室 六月度句会

六月十八日(月) 西集会所

席題 お題「光」

橋 正清選

夜空仰ぎ千年前の光見る
蓮の葉に一粒の玉明日照らす
原石を研いて光る普通の子
過疎化する街に光りを充ててみる
夢希望光る前途に黒いわな
歓楽に溺れる街の誘蛾灯
脚光を浴びた昔に縫りつく
秀重厚な笑顔の奥のいぶし銀
軸闇くもに超えてはみても光速度

英二 充 哲子 勝利 よう子 義雄 乃り子 登美 正清

宿題 お題「乱」(連記)

杉本ミノル選

揺れてます日本もまさに乱気流
乱れ飛ぶうわさ話におまけつく
世の乱れコメントどうぞお月さん
写したい乱るる心鏡にも
今の子の服装心も乱れがち
妻の乱余震去るまでじっと待つ
乱打戦ただピッチャーが弱いだけ
エンタメニュース主婦の井戸端乱れ飛ぶ
玄関に散らばる靴は孫の乱
不用意な言葉が起す乱反射
乱切りの野菜サラダに込める愛
ダイヤ乱れ乗り遅れてる泉下行き
動乱の昭和の付けが消えぬまま
秀一強に手も足も出ぬ永田町
秀あの人に限り乱れる訳がない
秀揺れ動く心に打てぬ句読点
軸戦乱の語り部老いてなお盛ん

哲子 登美 千楽 幸男 春代 充 アキラ 乃り子 広子 義雄 よし尚 正清 勝利 英二 えいじ よう子 ミノル

宿題 自由吟(共選)

八木哲子選

悔恨の情を忘れて地獄見る
日を畳み明日への命貯える
パンの耳雀も今日はモーニング
文句四捨感謝五入が丁度良く
夫婦円満お互い知る発火点
傲慢さ故に崩れた鉄の壁
父の日にドックの結果じつと見る
三ツ千円消して隣りにお裾分け

勝利 よう子 乃り子 義雄 義雄 勝利 英二 乃り子

食って寝てそこから先の未来形
憎めない噂のおひれよく跳ねる
倫理観要るか要らぬかお役人
北笑い安倍さんハシゴ外されそ

正清 よう子 アキラ

冬山で消費期限を悟る膝
理事長は何時にも決って取らぬ責め
秀三才の子供にもある黙秘権
軸明日見えぬサイトに群れる甘い罠

英二 幸男 広子 よし尚 哲子

宿題 自由吟(共選)

澤山よう子選

妄言ボスに官仕え具になる
アジサイにカタツムリ来てさまになる
日焼け止めぬれどお日様勝ってます
パンの耳雀も今日はモーニング
震度六さすがに怖いまだ死ぬぬ
古代ハス長寿の今もなげきらい
倫理観要るか要らぬかお役人
傲慢さ故に崩れた鉄の壁
三才の子供にもある黙秘権
冬山で消費期限を悟る膝
明日見えぬサイトに群れる甘い罠
夫婦円満お互い知る発火点
食って寝てそこから先に未来形
届け出る警察手帳拾ったと
秀文句四捨感謝五入が丁度良く
軸日を畳み明日への命貯える

千楽 充 春代 乃り子 えいじ 充 アキラ 勝利 英二 幸男 哲子 義雄 正清 幸男 義雄 よう子

宿題 お題「酔う」(互選)

②酒に酔えけれど人には呑まれるな
酔うほどに話がはずむ過去のこと
2匹目のドジョウいるか万博熱
同期会酔って本音を写す酒
安い酒悪酔いをして迎え酒
③うつ憤を酔いにまかせて撒き散らす
サヨナラ打六甲おろし酔いしれる
明日からは断酒と決めて夜毎酔う
紫陽花の青に酔ってる雨の午後
踏ん切りを酒に任せてプロポーズ
ナルシスト周りはみんな覚めている
④検問に飲んでませんと目が泳ぐ
いつも手に酒と笑顔の父思う
⑤酔ったふりして引き金に手をかける

幸男 えいじ 千楽 哲子 乃り子 勝利 アキラ 登美 広子 アキラ 英二 哲子 春代 正清

酔も醒め考え変わる無責任

よう子

六月十日 題「鳥」

酔い三分文句七分の絡み酒

義雄

独り言オームに真似をさせてみる

正清

接待で酔えずのれんで酔いまわる

よう子

⑥成人の孫端正に酔っており

ミノル

六月十七日 題「休日」

一杯でそれだけ酔えば金貯まる

英二

思い出がなんにもないという休み

正清

⑦恋に酔い酒に酔いしれうそに酔う

登美

恵まれぬ祝祭日は多いけど

幸男

飲む作法教えてやると酔い潰れ

義雄

⑧酔酔い醒めの水が本音をあぶり出す

勝利

奈良新聞 居谷真理子選

委ひからびた脳が脈打つ生ビール

広子

五月二十三日 題「白」

良い色に染まる覚悟の白でいる

アキラ

何十年色白だけを褒められる

英二

古日記余白の謎を追い詰める

よう子

白い布かかげて今日も闇をゆく

正清

鹿ノ台川柳教室 会員の新聞投句 掲載された句

(五月二十二日〜六月十七日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

五月三十日 題「パチパチ」

五月二十四日 題「まるい」

よう子

シャッターが鳴り終わっても頭下げ

千楽

一筆の添え書き心まるくする

よう子

火の無いところから栗が爆ぜだした

よう子

六月七日 題「塩」

アキラ

六月六日 題「隣」

近隣の国の芝生は青くない

千楽

隣席の答え写して共倒れ

アキラ

六月十四日 題「洗う」

アキラ

引越しにパスタを持ってごあいさつ

正清

こだわりを洗い流して明日へ翔ぶ

よう子

花赤く芝生は青し我が家かな

幸男

フェンス越し仲良く話す犬二匹

英二

毎日新聞 山田順啓選

五月三十一日 題「続く」

六月十三日 題「黙る」

ぬかるみに足を取られて道半ば

正清

あの顔は風の前の静けさだ

英二

クライマックス次回に続くコマーションシャル

乃り子

おしゃべりに囲まれ無口目立ってる

よう子

ご意向に続く理由はどうにでも

アキラ

話したら心配かける事ばかり

アキラ

六月七日 題「アンテナ」

よう子

奈良新聞 自由吟

マイカップ情報拾うティータイム

よう子

六月十四日 藤原一志選

フルコース老母に箸が添えてある

よう子

六月十四日 題「歌う」

勝利

王道という陳腐さがたまらない

正清

衰えを知らぬ昭和の歌謡曲

勝利

腰痛やさらに上がらぬ重い腰

幸男

独りしてもう一曲とひとり酒

幸男

三十度まだ五月だと言ひ聞かず

アキラ

読売新聞 阪本高士選

*橘正清、林勝利、前田幸男、

六月三日 題「さまよう」

各氏は短歌俳句でも各紙で活躍

さ迷えばメトロノームにたどりつく

正清

* 前回、宿題「ついに」で秀句に輝いた登美さん、今回も席題「光」でみごと「秀」に。「重厚な笑顔の奥のいぶし銀」と、お題「光」を読み込まない句だった。

前回、見学に遠方からお見えの元美少女トリオは今回：残念無念。|(千)*

「川柳を 書いて汗かき 恥もかき」

川柳と一緒に楽しみませんか

興味のある方左記まで是非ご一報を

次回 七月十六日、十二時十五分開場、西集会所

宿題は「湯」、「認める」、「自由吟」 各二句

* 「席題」選者 正清 十二時三十分「お題」発表

* 「湯」連記 選者 広子

* 「自由吟」(共選) 選者 良一 勝利

* 「認める」互選

出句々 宿題・席題 とも十三時

問合せ

原 広子 (79・0061)

野々村詮 (090・6961・1292)